

NSG

GROUP

NSG グループ

2019年3月期通期決算報告

(2018年4月1日～ 2019年3月31日)

日本板硝子株式会社
2019年5月10日

森 重樹

代表執行役社長兼CEO

諸岡 賢一

代表執行役副社長兼CFO

クレメンス・ミラー

代表執行役副社長兼COO

1. 2019年3月期通期 決算概要
2. 2019年3月期通期 事業状況
3. 2020年3月期連結業績予想
4. 配当、A種種類株式償還
5. 中期経営計画（MTP）フェーズ2進捗とFY20方針
6. まとめ

2019年3月期通期 決算ハイライト

売上高	6,128億円 (前期比 +2%)	下期に欧州及び北米の自動車市場が軟調となったものの、他の市場は安定あるいは成長
無形資産償却前 営業利益	388億円 (前期比 +3%)	6期連続で増益
税引前利益	227億円 (前期比 +3%)	金融費用削減および持分法投資損益改善の効果が、リストラ費用などを含む個別開示項目のコスト増を上回り、増益
法人所得税	△84億円	前期は米国税制改正に伴う一過性所得税計上(△96億円)を含む
親会社所有者に 帰属する当期利益	133億円 (前期比 +116%)	前期比大幅改善
フリー・キャッシュ・フロー	9億円	営業C/F計画未達および運転資本増加等の影響により、前期から減少

当期利益が大幅に改善、収益基盤安定

連結損益計算書

(億円)	*1		増減
	2018年3月期	2019年3月期	
売上高	5,989	6,128	139
無形資産償却前営業利益	377	388	11
償却費 *2	(20)	(19)	1
営業利益	357	369	12
個別開示項目	(13)	(71)	(58)
金融費用（純額）	(146)	(133)	13
持分法による投資損益	24	62	38
税引前利益	222	227	5
当期利益	79	144	65
親会社の所有者に帰属する当期利益	62	133	71
EBITDA	636	647	

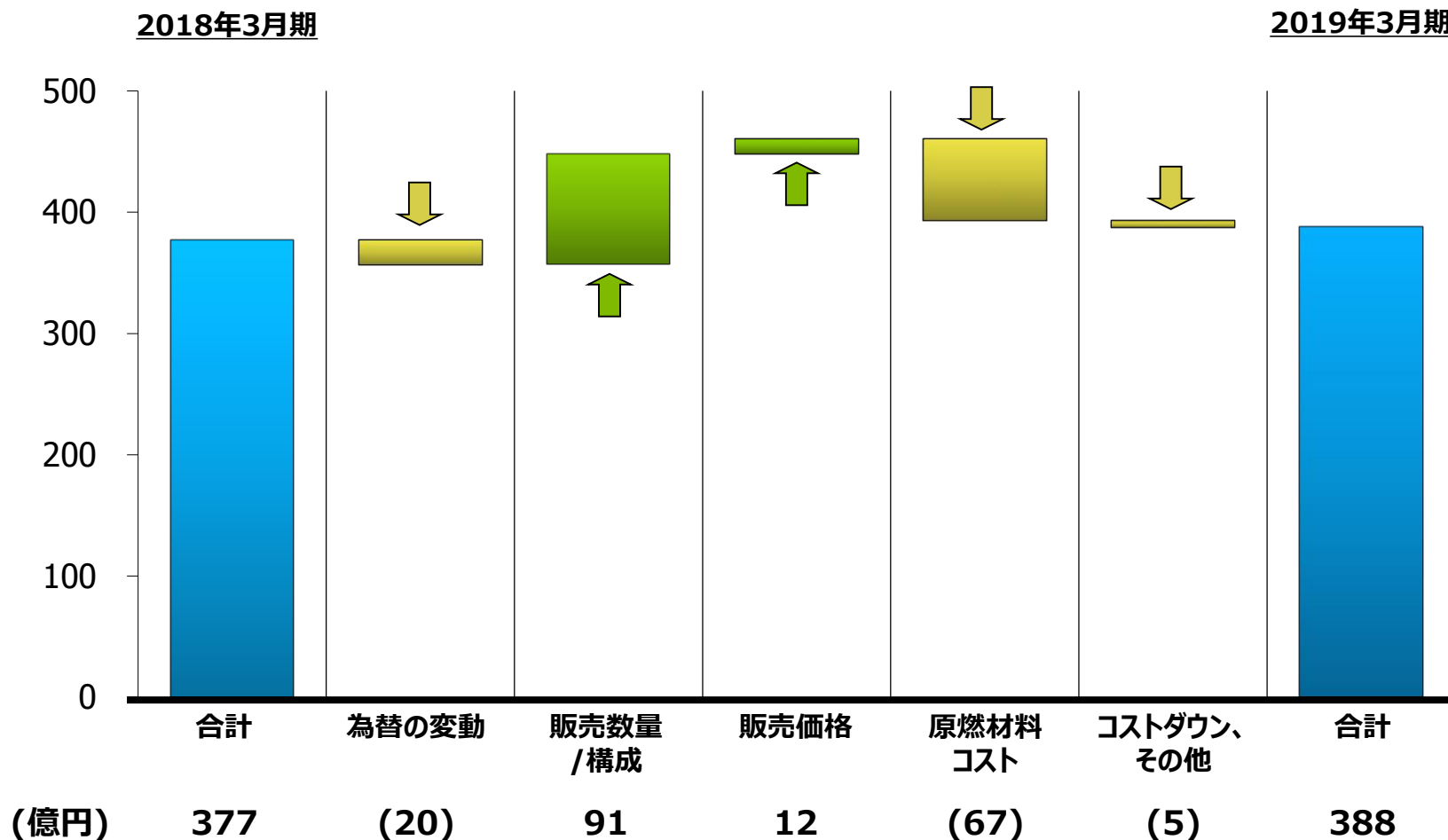
*1: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

*2: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

業績予想に沿った着地、営業利益6期連続増益

営業利益差異分析

(無形資産償却前)



エネルギー関連コスト増の影響を受けるも、数量/構成が改善

主要財務指標 (KPI)

	<u>2018年3月末</u> ^{*1}	<u>2019年3月末</u>
ネット借入 (億円)	3,065	3,177
ネット借入/EBITDA	4.8x	4.9x
ネット借入/純資産比率	2.1x	2.4x
自己資本比率	17.1%	16.2%
ROE ^{*2}	4.7%	10.3%
	<u>2018年3月期</u> ^{*1}	<u>2019年3月期</u>
営業利益率 ^{*3}	6.3%	6.3%

*1: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

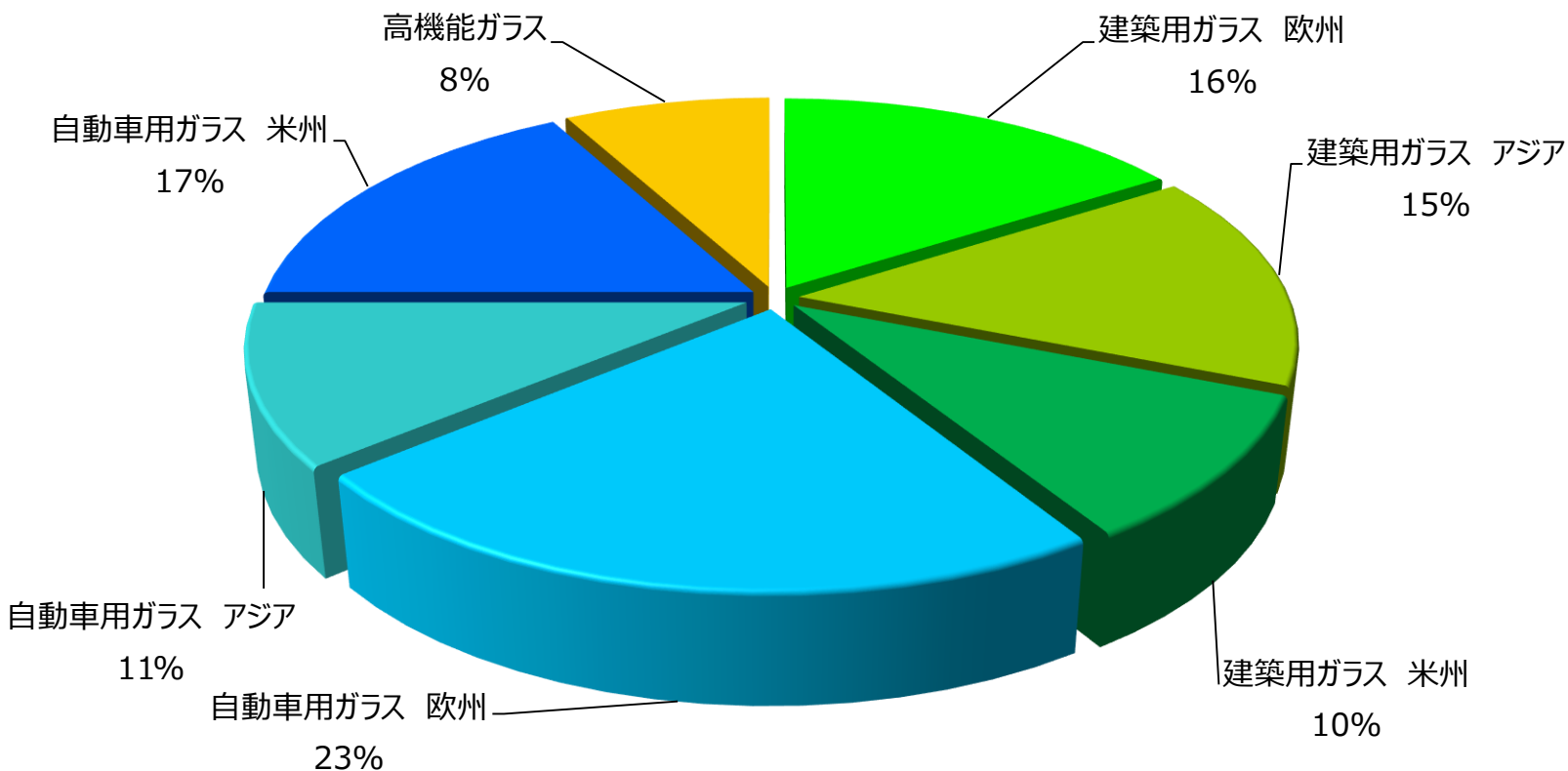
*2: 親会社所有者帰属持分当期利益率

*3: 無形資産償却前営業利益

ネット借入/EBITDA比率は、借入増加による影響を受ける

事業別売上高

6,128億円

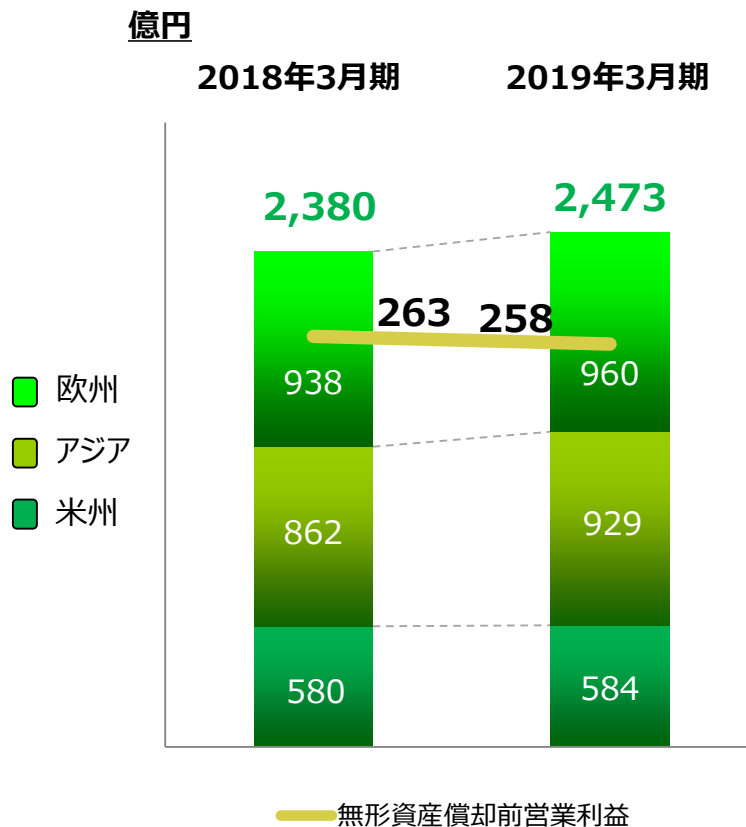


2019年3月期 通期
(2018年4月-2019年3月)

グローバルに事業展開

建築用ガラス事業

2018年3月期通期との比較



欧州（増収・利益横這い）

- 上期に実施した定修や投入コスト増加の影響を受けるも、好調な需要を背景に若干の増益

アジア（増収・利益横這い）

- 日本は出荷増により収益改善
- 東南アジアでは太陽電池パネル用ガラスの売上が増加する一方、投入コスト増加の影響により減益

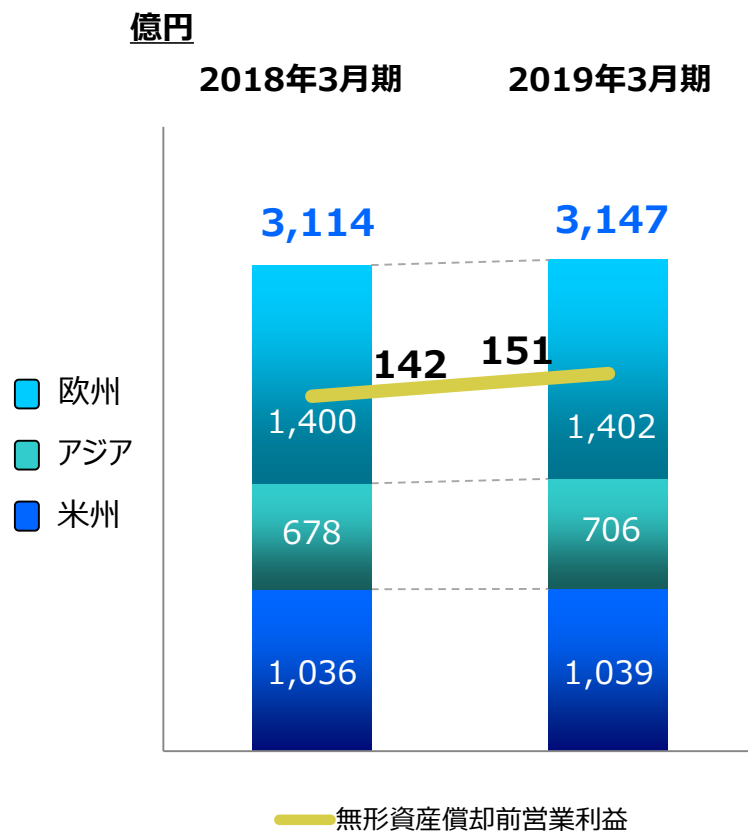
米州（増収・減益）

- 北米は好調な需要とオタワ工場再稼働の効果により増収だが、製造コストの増加により利益横這い
- 南米は為替と超インフレ会計の影響を受け、円ベースでは減収減益

投入コスト増やアルゼンチン・ペソの為替変動の影響を受け減益

自動車用ガラス事業

2018年3月期通期との比較



欧州（売上横這い・増益）

- Q3に入って新車市場が急減速する中、通期では利益は改善
- 補修用ガラス(AGR)の数量/構成は改善

アジア（増収・利益横這い）

- 日本は上期に自然災害影響を受けるも売上は前年を上回る
- 補修用ガラス（AGR）は数量増により各地域で増益

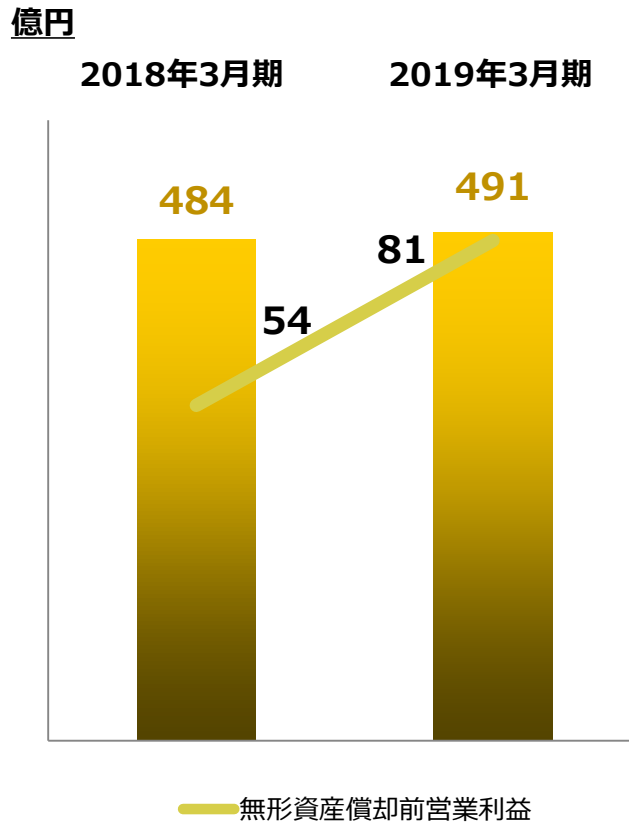
米州（売上横這い・利益横這い）

- 北米の新車用ガラス(OE)は、軟化した乗用車販売台数の影響を受ける
- 南米はブラジルにおける数量の回復により増益

下期に欧州・北米で市場軟化の影響を受けるも、通年で増益

高機能ガラス事業

2018年3月期通期との比較



高機能ガラス事業（増収・増益）

- ファインガラス^(*)は売上増とコスト改善により損益改善
- プリンター用レンズの需要はわずかに軟化
- グラスコードの需要は軟化
- メタシャイン[®]は自動車用塗料、化粧品向けの販売が増加
- バッテリーセパレーターの需要は、日本で堅調に推移

*: 3月29日に公表しました通り、4月1日付でディスプレイ事業部の名称を「ファインガラス事業部」へ変更しております。

ファインガラス^(*)分野を中心に利益改善が継続

2020年3月期通期業績予想

連結損益計算書

(億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 見通し	増減
売上高	6,128	6,200	72
無形資産償却前営業利益	388	370 ^{*2}	(18)
償却費 ^{*1}	(19)	(20)	(1)
営業利益	369	350	(19)
個別開示項目	(71)	(60)	11
金融費用（純額）	(133)	(140) ^{*2}	(7)
持分法による投資損益	62	40	(22)
税引前利益	227	190	(37)
当期利益	144	120	(24)
親会社の所有者に帰属する当期利益	133	110	(23)

*1: ピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

*2: IFRS第16号「リース」の適用により、営業費用が10億円減少し、金融費用が10億円増加することを見込んでおります。税引前利益、当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益への影響は軽微です。

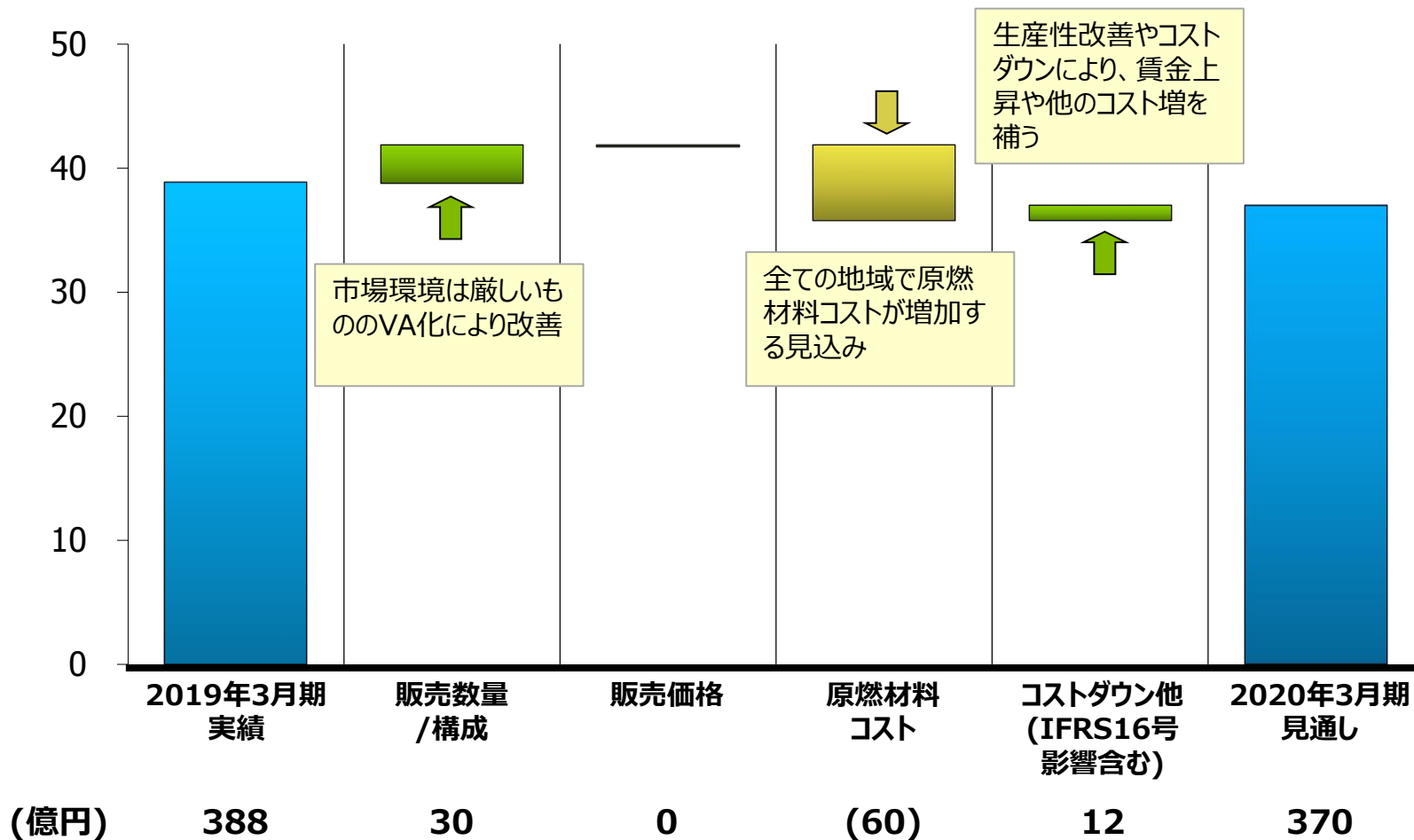
2020年3月期見通しの前提について、

- ・ 減価償却費・資本的支出・研究開発費 44ページ
 - ・ 為替レート・原油価格 45ページ
- をご覧ください。

原燃材料コストの増加等により減益

2020年3月期通期業績予想

営業利益差異分析（無形資産償却前）



「原燃材料コスト」の増加が「販売数量/構成」の改善効果を上回る

2020年3月期通期業績予想

- **グループ全体**
 - 売上高は、VA製品売上の増加により、2019年3月期から若干の改善
 - 営業利益は原燃材料コストの上昇の影響を受ける見込み。市場環境が厳しくなる中、価格転嫁に制約
- **建築用ガラス事業：最も原燃材料コスト増の影響を受ける**
 - 欧州市場は堅調に推移する見込み
 - アジア市場は安定的に推移し、太陽電池パネル用ガラスの数量は増加
 - 北米市場では競争が激化
- **自動車用ガラス事業：市場が低調に推移する見込み**
 - 欧州では需要が減少傾向
 - アジアでは、特に日本においてコストが増加
 - 北米市場はFY19下期の低調が継続、南米ではブラジルの数量が改善
- **高機能ガラス事業：全体として改善基調**
- **ネット借入：増加する見込み**
 - 特殊要因を除いた基調キャッシュ・フローはプラス
 - 戦略的投資等に係る資本的支出の影響を織り込む
 - IFRS第16号「リース」の影響：資産400億円と同額の負債をオンバランス化（ネット借入/EBITDA比率への影響はわずか）

配当

2019年3月期：期末普通配当20円を決定

2020年3月期：期末普通配当維持の予想

	2019年3月期			2020年3月期（予想）		
	(中間)	(期末)	(合計)	(中間)	(期末)	(合計)
普通配当(円/株)	-	20	20	-	20	20
記念配当(円/株)	10	-	10	-	-	-
普通株式配当合計	10	20	30	-	20	20
配当総額(億円)	20	28	48	-	35	35
（普通配当額）	(9)	(18)	(27)	(-)	(18)	(18)
（優先配当額）	(11)	(10)	(21)	(-)	(17)	(17)
連結配当性向(普通株式)			26%			21%

※2018年3月期に普通配当復配（期末配当20円）

配当方針

- 持続可能な事業の業績をベースにして、安定的に配当を実施することが利益配分の基本方針
- A種種類株式全部償還後も本基本方針を維持、連結配当性向30%を目安に継続的な配当実施に努める

A種種類株式償還（取得および消却）

当期利益の安定的改善を踏まえ、2018年12月に引き続き、
A種種類株式の一部償還を決定

取得・消却する株式数	5,000株
取得価額	58億円 (50億円+プレミアム7.5億円+日割優先配当金 0.5億円)
取得・消却日	2019年6月6日（予定）
取得後の未取得株式数	30,000株（発行価額：300億円）

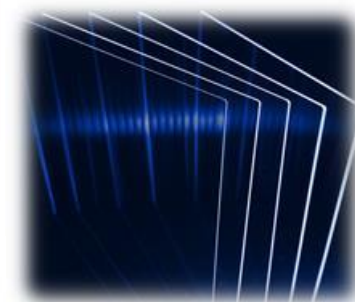
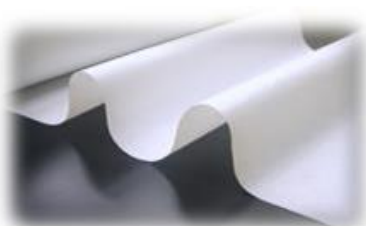
(注) 2017/3/31 発行: 40,000株 (400億円)
2018/12/7 一部取得・消却: 5,000株 (50億円)

今後の償還方針

- 当期利益、優先・普通配当を勘案し、財務安定性を維持しつつ
早期に償還を行う方針
- 償還により優先配当および償還プレミアムを低減

中期経営計画（MTP）フェーズ2進捗と FY20方針

Shift to VA + Growth



Courtesy of First Solar Inc.

* VA: Value-added

- MTP開始(FY15*)以降：
 - 収益改善は着実に進捗、当期利益も大きく改善、安定化
 - 次の成長に向けた準備にも着手
- しかしながらMTPの財務目標は未達の見通し、課題を認識
- MTPの方向性に変更なし。次年度からの再上昇に向けて、手を緩めることなく、やるべきこと「事業構造の変革」をきちんとやり抜く

事業収益力強化：VA化加速とたゆまぬ効率化、コスト改善

成長機会開発：戦略投資の立上げ、新製品拡販

新規事業育成：BIC*、R&Dの増強

* FY15: 2015年3月期

FY20: 2020年3月期

* BIC: ビジネス・イノベーション・センター

MTPフェーズ2 重点施策の進捗

1. 重点施策

VA No. 1 戦略の推進	<ul style="list-style-type: none">建築用ガラスにおいてオンラインコーティング分野で優位性を確立高付加価値自動車用ガラスの受注増が利益増に寄与
成長ドライバーの確立	<ul style="list-style-type: none">有望な開発課題を“Star Projects”として登録し事業化を加速
ビジネスカルチャーイノベーション	<ul style="list-style-type: none">「ものづくりの強化」により、主に自動車用ガラス工程の生産性が向上「マーケティングの強化」により、カスタマーファーストの考え方が営業部門のみならず全社全部門に拡大
グローバル経営の強化	<ul style="list-style-type: none">世界4か所にシェアードサービスセンターを設置し、グローバルの事務処理機能を集約インクルージョン&ダイバーシティ宣言を行い、人材の多様化と参画を促進

2. 財務施策

- A種種類株式発行により自己資本の改善を図るとともに、金融費用削減目標を一年早く達成

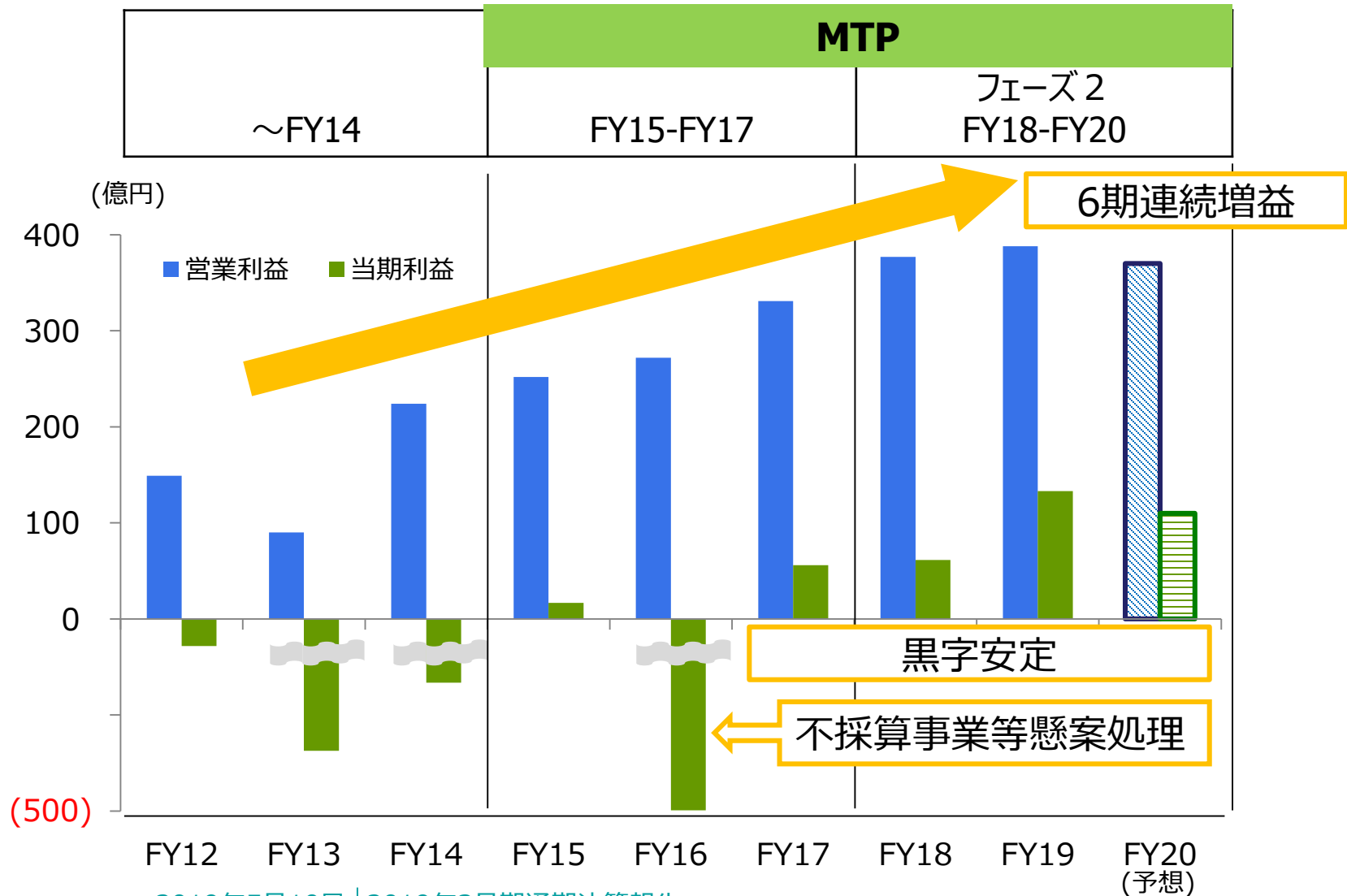
MTP開始以降、収益改善に取り組み

長期戦略ビジョン「VAガラスカンパニーへの変容・変革」に沿って施策を実行

	MTP	
	~FY14	FY15-FY17
世界金融危機～ 欧州政府 債務危機 ↓ 需要急減に対応 したリストラフェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ● VA売上拡大 ● 効率改善・コスト削減 	営業収益改善
	加えて FY16: <u>不採算事業・懸案事項の一括処理</u> ・ 結晶ソーラーガラス撤退 ・ ベトナム薄板窯休止 FY17: <u>A種種類株式発行</u> → 財務安定 → 金融費用削減	黒字安定 '18/3期末: 普通株復配 '18/12: 種類株部分償還開始 FY19: <u>成長施策着手</u> ・ 戦略投資決定: 薄膜ソーラー & 南米 ・ BICの立ち上げ

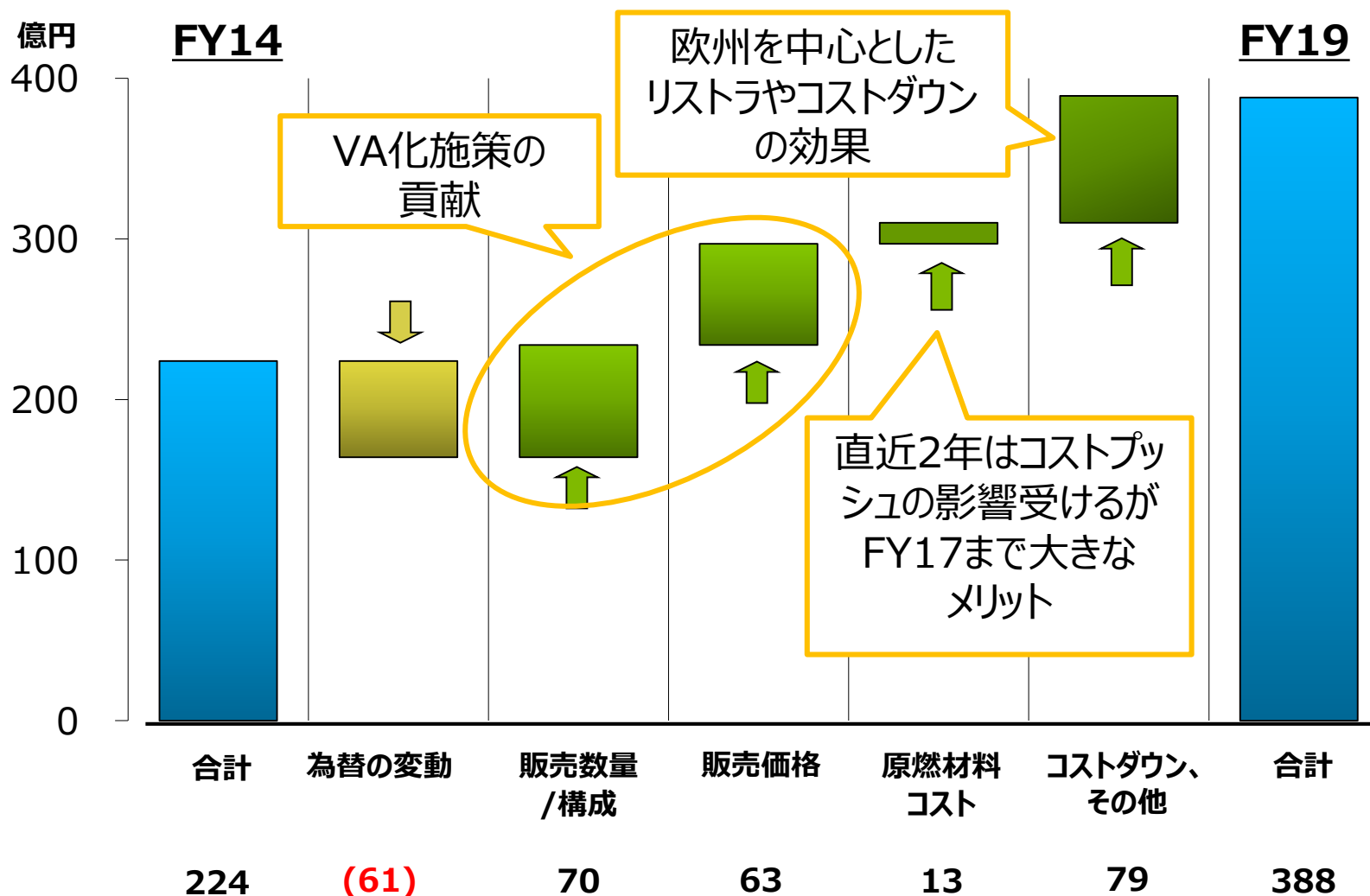
収益性改善と当期利益の安定化を実現

FY20で減速するも、営業利益6年連続増益を達成、安定的に黒字化



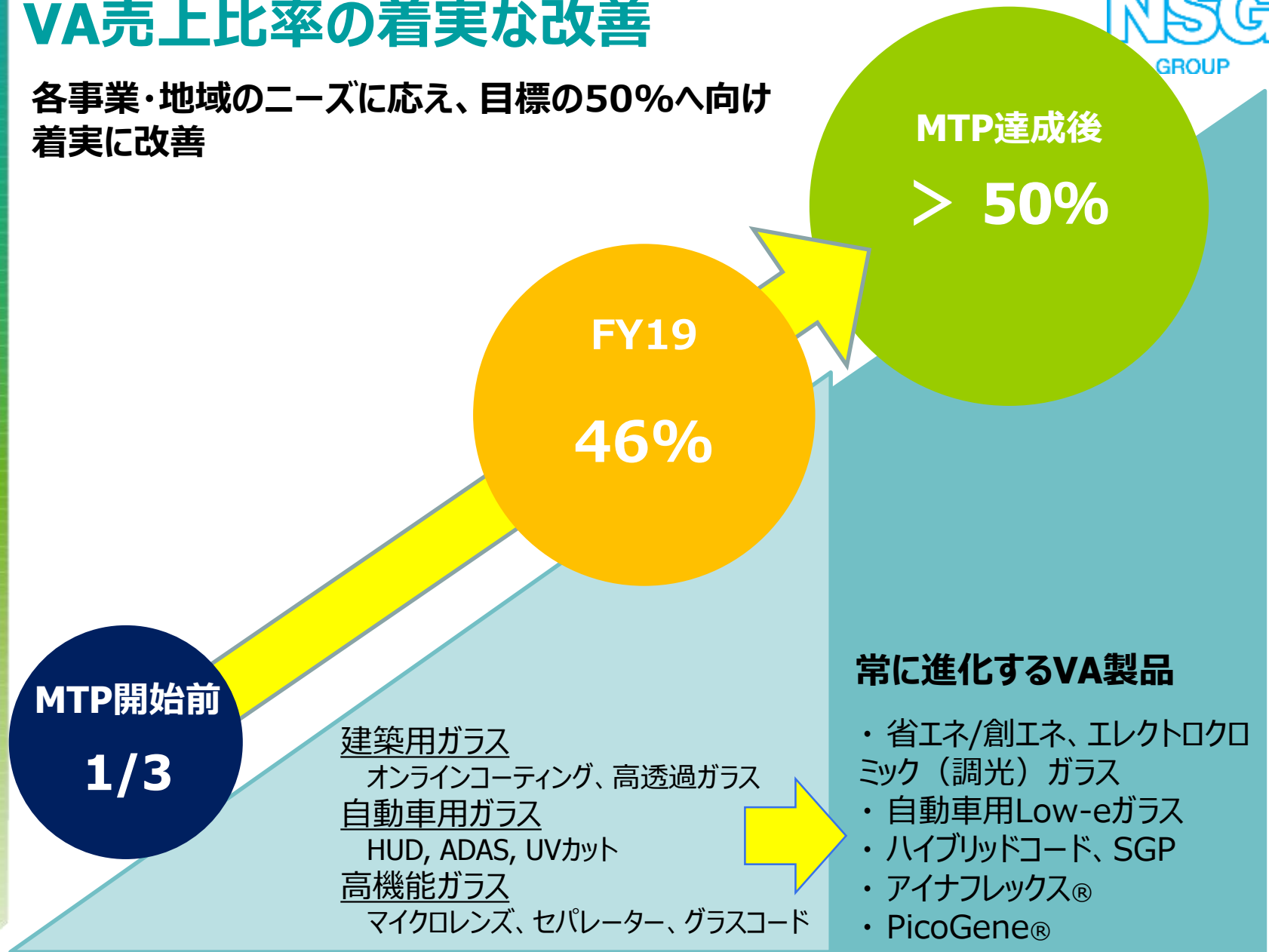
VA化と継続したコストダウンによる利益改善

為替の影響を受けるもMTP施策と堅調な市場環境により収益改善



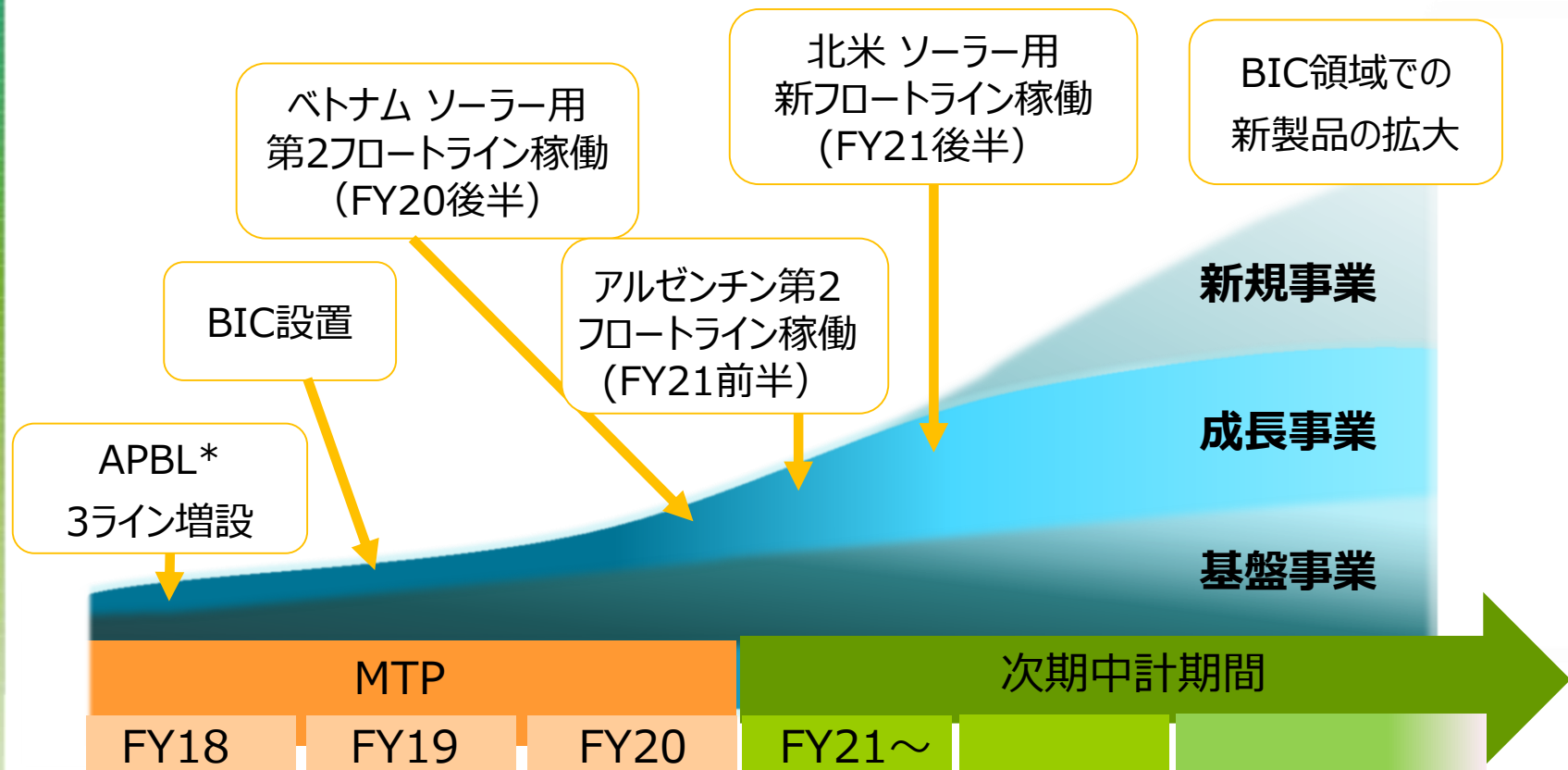
VA売上比率の着実な改善

各事業・地域のニーズに応え、目標の50%へ向け
着実に改善



今後の成長を見据え戦略投資を決定、 新規事業開発加速のためBIC設立

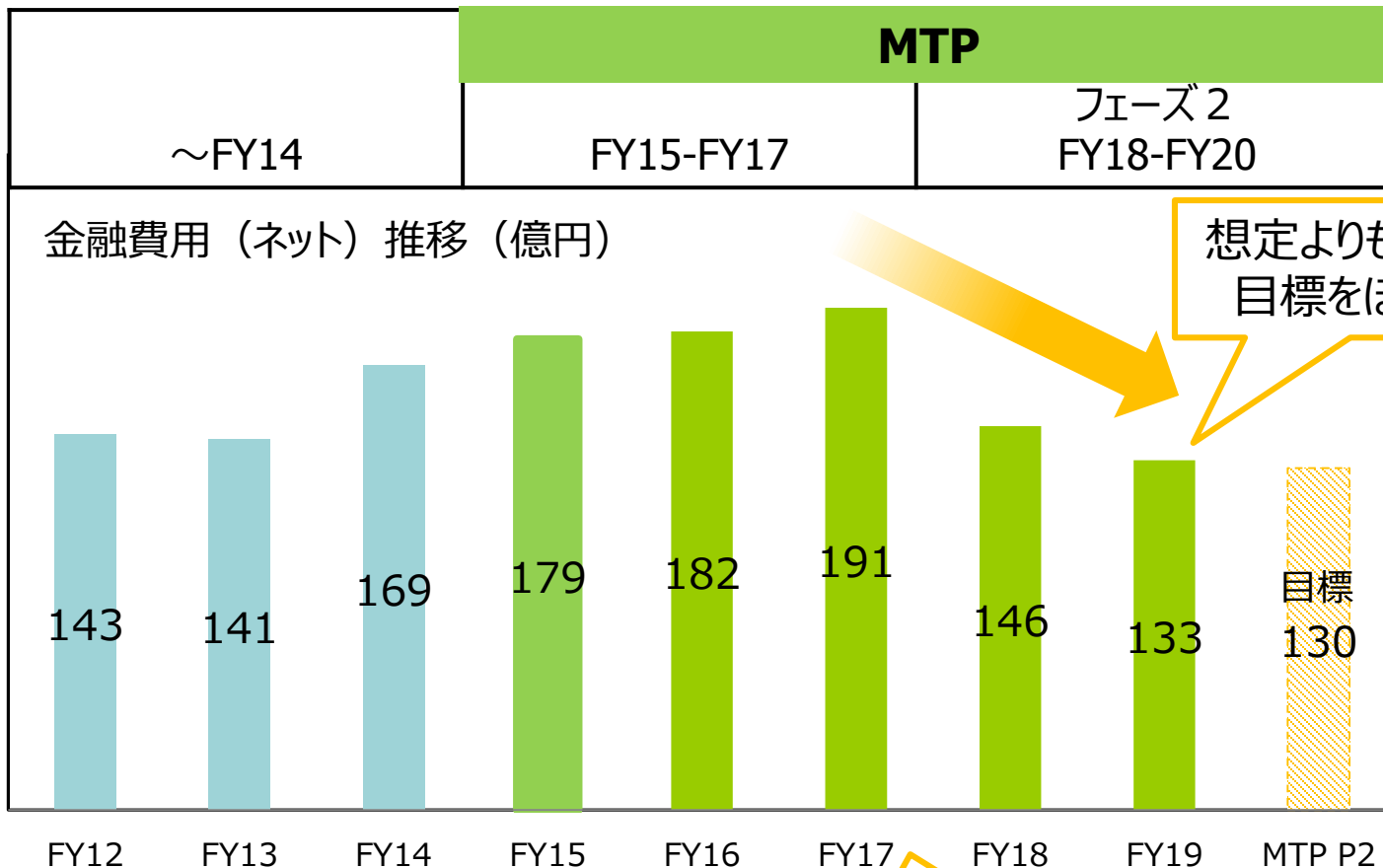
強みのある分野・成長地域・新事業において重点的にアクション



* APBL : Advanced Press Bending for Laminated glass - フロントガラス用高精度プレス工法

金融費用削減による当期利益の押し上げ

FY19にMTP目標にほぼ到達、当期利益の改善に寄与



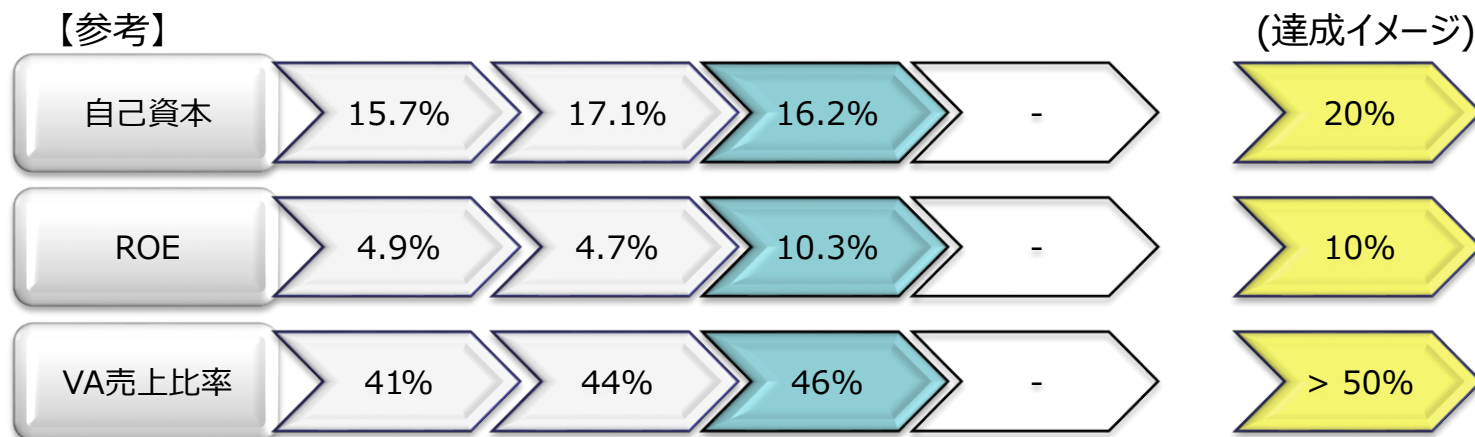
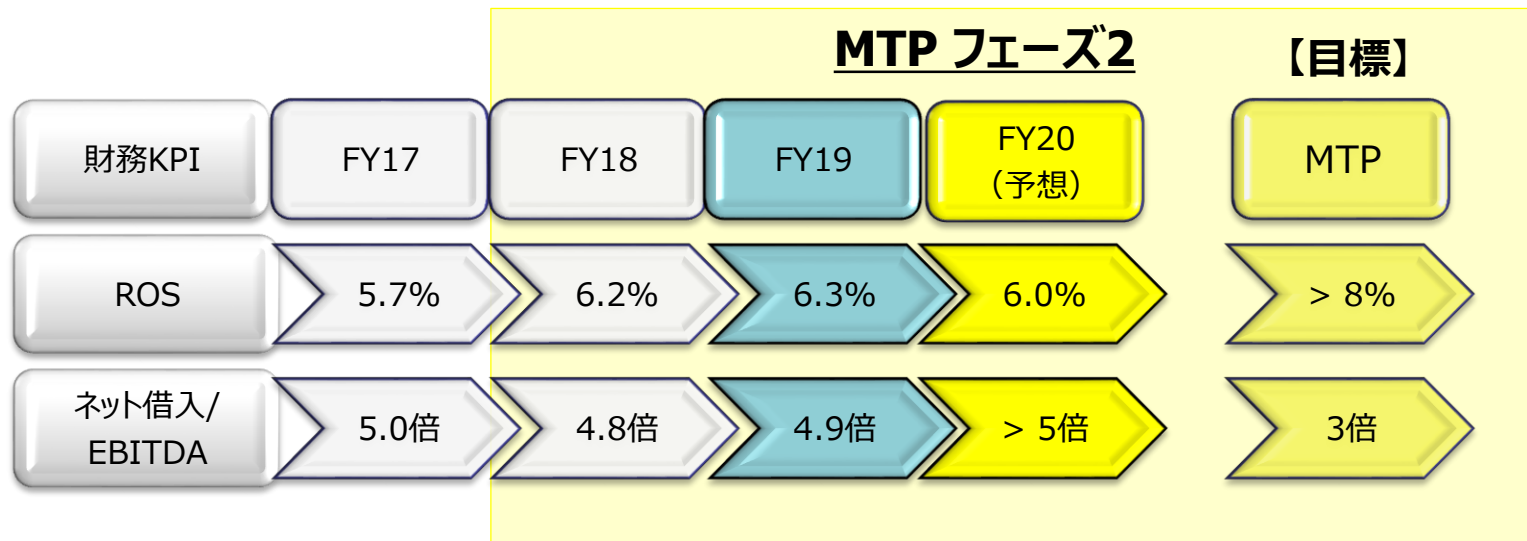
想定よりも 1年早く
目標をほぼ達成

A種種類株式発行

- FY2019は超インフレ会計による金融費用増加15億円を除けば実質118億円

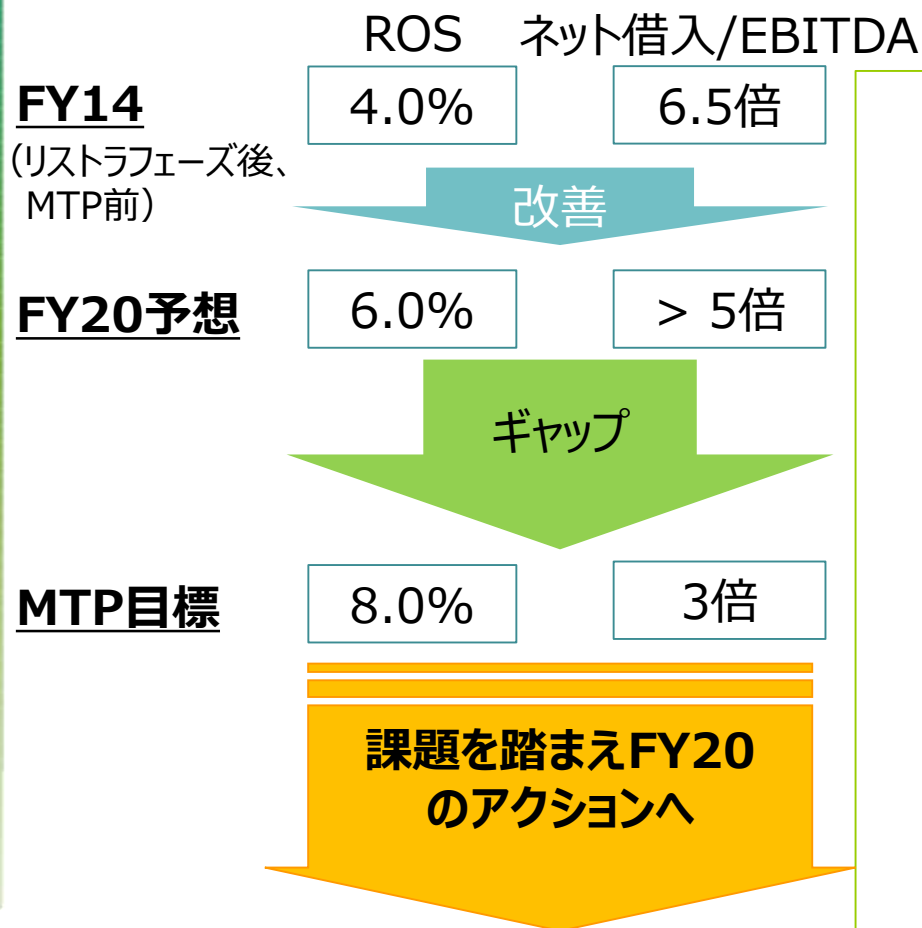
財務目標達成には至らない見通し

前年度までは改善基調で進むも、今期は減速



目標未達の要因と課題認識

利益目標未達は新製品売上の進捗遅れとコスト上昇が主因
 ネット借入は戦略投資前倒し決定の影響も受ける



計画とのギャップ^o主要因 = 課題

ROS & EBITDA

新製品売上開始遅れ
 一部事業VA化遅れ

計画を上回る
 原燃料コスト
 アップ

効率化による
 コストダウン未達

ネット借入

利益未達と戦略投資決定により
 ネット借入増加

FY20方針: Shift to VA + Growth

次年度からの再上昇に向けて、手を緩めることなく、やるべきこと「事業構造の変革」をきちんとやり抜く

成長ステージごとの取り組み

基盤事業

事業収益力の強化

- VA化をさらに加速、目標の50%へ
- 従来の生産性改善に加え、コスト構造を改善
- 低採算事業の改善加速（事業構造の見直し・選択と集中）

成長事業

成長機会開発

- 戦略投資案件の確実な立上げ
- 成長加速に向けたマーケティング機能の強化
- R&D体制の拡充
- 新製品の上市、拡販

新規事業

新規事業育成

- ビジネス・イノベーション・センター（BIC）を強化し、実行フェーズに移行

収益改善施策の推進

- VA化をさらに加速、目標の50%へ
 - 高機能ガラスは達成済み、建築用ガラスは順調に向上中
 - 自動車用ガラス事業は新車モデルの切替タイミングで改善へ
- 従来生産性改善に加え、コスト構造を改善
 - VA化による品質要求レベルの高まりに応える
オペレーションのレベルアップ、ものづくり強化
(特に自動車用ガラス事業、北米建築用ガラス事業)
 - サプライチェーンのコスト改善（物流コスト）、生産プロセス改善
- 低採算事業の改善加速（事業構造の見直し・選択と集中）
 - 低いROS事業（日本建築用ガラス事業など）の構造改革・選択と集中・効率化

戦略投資各プロジェクトはいずれも予定通り進捗中

- 太陽電池パネル用ガラス生産能力の増強
 - ベトナム第2フロートライン
(FY20下期稼働予定)
 - 設備据付工事中
 - 北米・新フロートライン
(FY21下期稼働予定)
 - 2019年4月に起工式
- 南米（アルゼンチン）フロートライン増設
(FY21上期稼働予定)
 - 建屋建設工事中



↑ 設備据付工事の状況（ベトナム）



↑ 北米・新ライン 起工式



↑ 建屋工事の状況（アルゼンチン）

新製品の上市、拡販を加速

- 成長加速に向けたマーケティング機能の強化
 - 顧客密着のマーケティング活動強化
- R&D体制の拡充
 - R&D予算の増額
 - BICの増強
- 新製品の上市、拡販
 - 建築用ガラス：
 - 環境規制強化が機会（ZEH/ZEB *）
 - オンラインコーティングの可能性追求：エレクトロクロミック（調光）ガラス等
 - 自動車用ガラス：ADAS *、HUD *、EV対応*
 - 高機能ガラス：ISS *用セパレーター、ハイブリッドコード、メタシャイン
 - BIC：PicoGene®発売



↑ エレクトロクロミックガラス
(写真: View Dynamic Glass)

* ZEH/ZEB: ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス/ビルディング

* ADAS: 先進運転支援システム

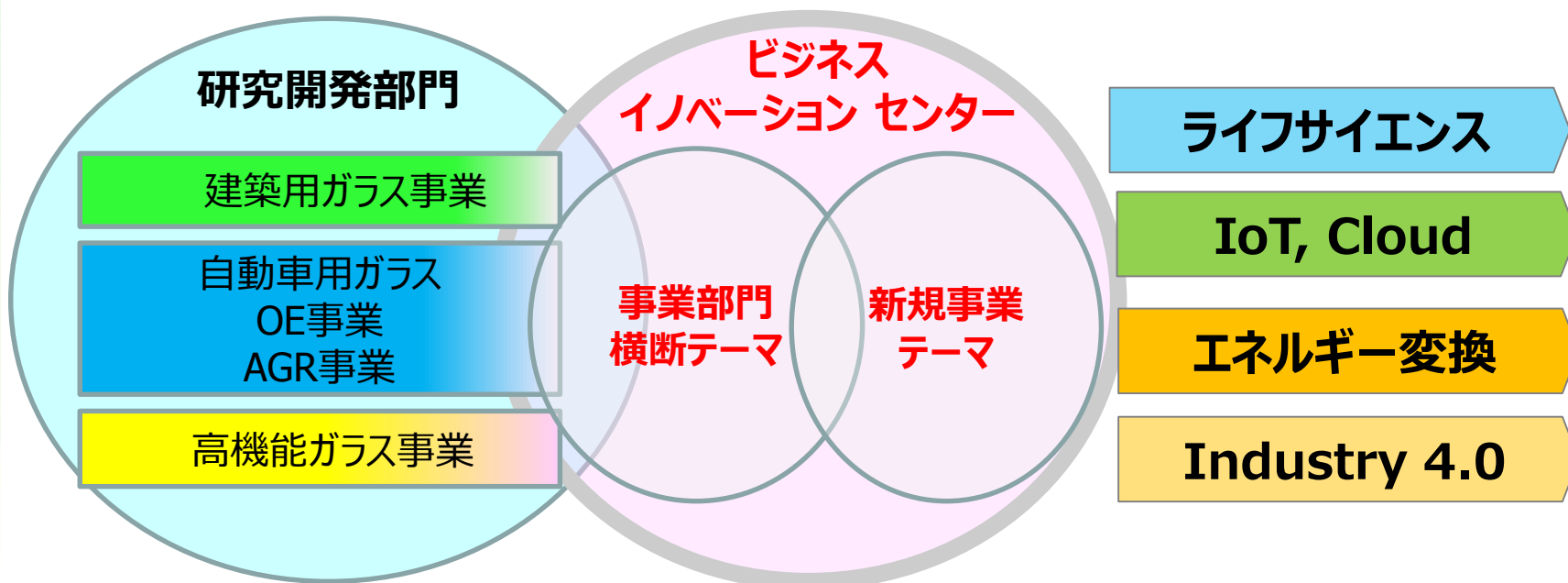
* HUD: ヘッドアップディスプレイ

* EV: 電気自動車

* ISS: アイドリングストップ&スタート

BICのミッション

- NSGの有望技術を既存のガラス事業以外の領域で応用・商品化
- 成長分野で後追いではない新規事業を開発
- 世界で市場開拓
- NSG企業文化の変革

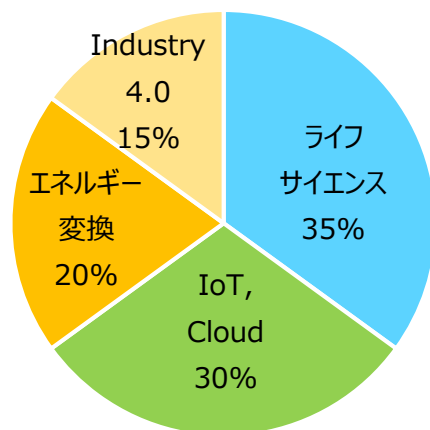


新規事業の育成・新しい顧客価値創造

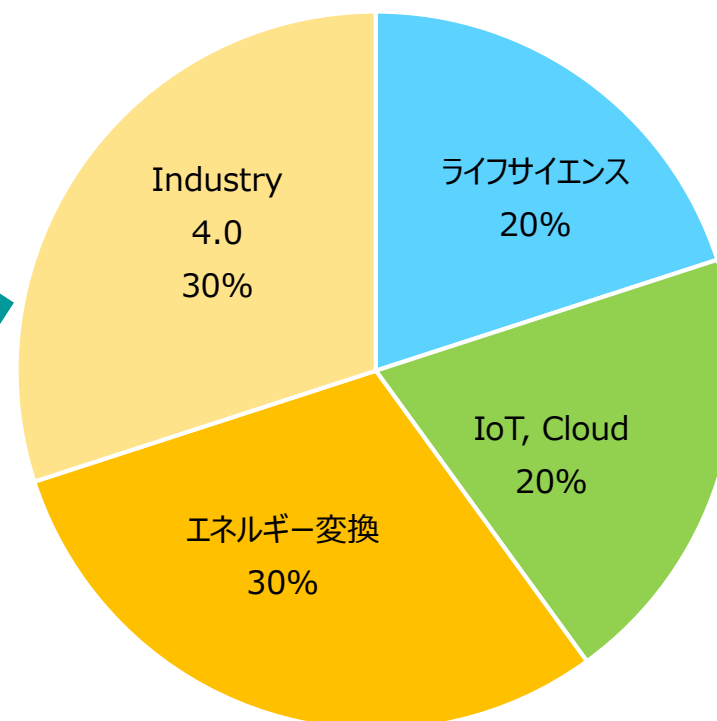
- BICを增強し、実行フェーズに移行

BICの目指すところ

5年後（2023年頃）
売上：200億円



10年後（2027年頃）
売上：1,000億円



4/10 本格販売を発表



世界的な健康・環境の課題

- 安全な水の確保
- 減らない感染症
- 生態系の変化

従来のPCR装置の課題

既存の装置は高精度で有用だが…

- 使用は専門施設内に限定
- 多くはDNA測定に長時間必要

迅速で場所を問わず使用可能な
モバイル遺伝子検査システムが必要



迅速、高精度で場所を問わない
遺伝子検査を実現

- コンパクト
- 軽量
- 迅速
- 省電力
- 高感度

ウェブサイト : <https://pcr-nsg.jp/>

2019年3月期通期業績

- 原燃料コスト上昇、下期の欧州・北米の自動車市場軟調の影響を受けるも、業績予想に沿った着地
- 6期連続営業増益達成。当期利益は大幅改善

FY20見通し

- 売上高は、VA製品売上の増加により、2019年3月期から若干の改善
- 営業利益は、原燃材料コストの上昇の影響を受ける見込み。市場環境が厳しくなる中、価格転嫁に制約
- 建築用ガラス事業：最も原燃材料コスト増の影響を受ける
- 自動車用ガラス事業：市場が低調に推移する見込み
- 高機能ガラス事業は、全体として改善基調
- 戦略投資の実行等によりネット借入は増加

FY20方針: Shift to VA+Growth

- MTPの方向性に変更なし。次年度からの再上昇に向けて、手を緩めることなく、やるべきこと「事業構造の変革」をきちんとやり抜く
- 事業収益力強化：VA化加速とたゆまぬ効率化・コスト改善
- 成長機会開発：戦略投資の立上げ、新製品拡販
- 新規事業育成：BIC, R&Dの増強

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市況、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

補足資料

- 決算補足資料
 - 事業部門別・地域別 売上高及び償却前営業利益
 - 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
 - 個別開示項目
 - 連結貸借対照表
 - 連結キャッシュ・フロー
 - 減価償却費・資本的支出・研究開発費
 - 為替レート・原油価格
 - アルゼンチンにおける超インフレ会計

- MTP補足資料
 - BICの取り組み領域
 - 2018年11月～2019年4月 主なニュースリリース

事業部門別・地域別 売上高及び償却前営業利益*1

2018年3月期との比較



売上高

(億円)	通期 (12ヶ月累計)			第4四半期 (1-3月:3ヶ月累計)		
	2018年3月期*2	2019年3月期	増減	2018年3月期*2	2019年3月期	増減
建築用ガラス事業	2,380	2,473	93	584	606	22
欧州	938	960	22	235	233	(2)
アジア	862	929	67	213	231	18
米州	580	584	4	136	142	6
自動車用ガラス事業	3,114	3,147	33	831	797	(34)
欧州	1,400	1,402	2	395	355	(40)
アジア	678	706	28	181	183	2
米州	1,036	1,039	3	255	259	4
高機能ガラス事業	484	491	7	117	124	7
欧州	79	81	2	22	23	1
アジア	392	395	3	91	97	6
米州	13	15	2	4	4	0
その他	11	17	6	4	7	3
合計	5,989	6,128	139	1,536	1,534	(2)

償却前営業利益*1

(億円)	通期 (12ヶ月累計)			第4四半期 (1-3月:3ヶ月累計)		
	2018年3月期*2	2019年3月期	増減	2018年3月期*2	2019年3月期	増減
建築用ガラス事業	263	258	(5)	58	75	17
自動車用ガラス事業	142	151	9	66	60	(6)
高機能ガラス事業	54	81	27	4	16	12
その他	(82)	(102)	(20)	(26)	(35)	(9)
合計	377	388	11	102	116	14
欧州	179	186	7	55	61	6
アジア	169	198	29	40	54	14
米州	111	106	(5)	33	36	3
その他	(82)	(102)	(20)	(26)	(35)	(9)
合計	377	388	11	102	116	14

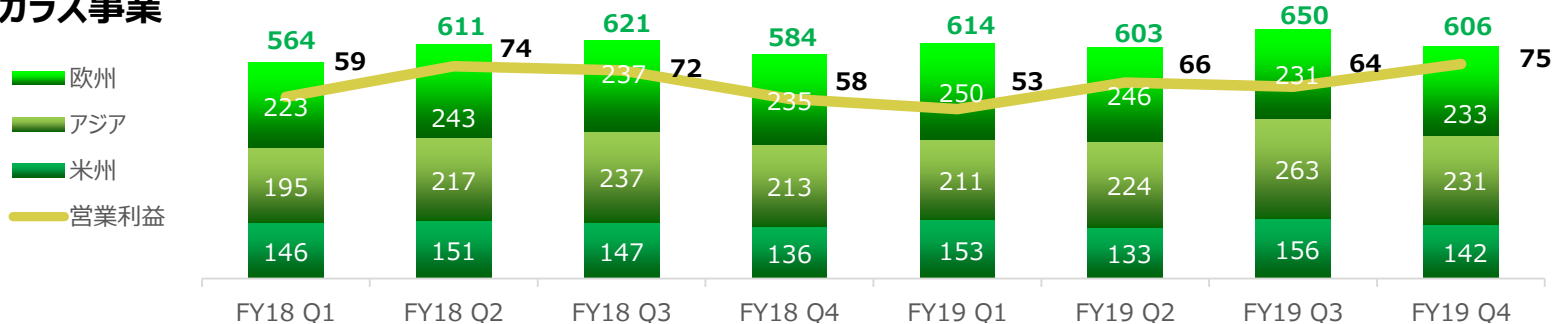
*1: 無形資産償却前営業利益

*2: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

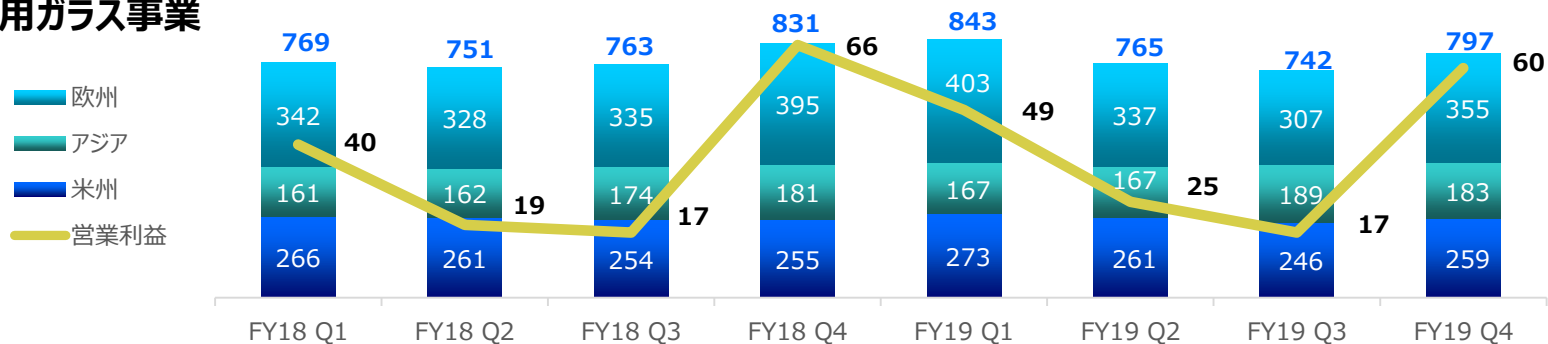
事業部門別・地域別 売上高及び償却前営業利益*

四半期別推移

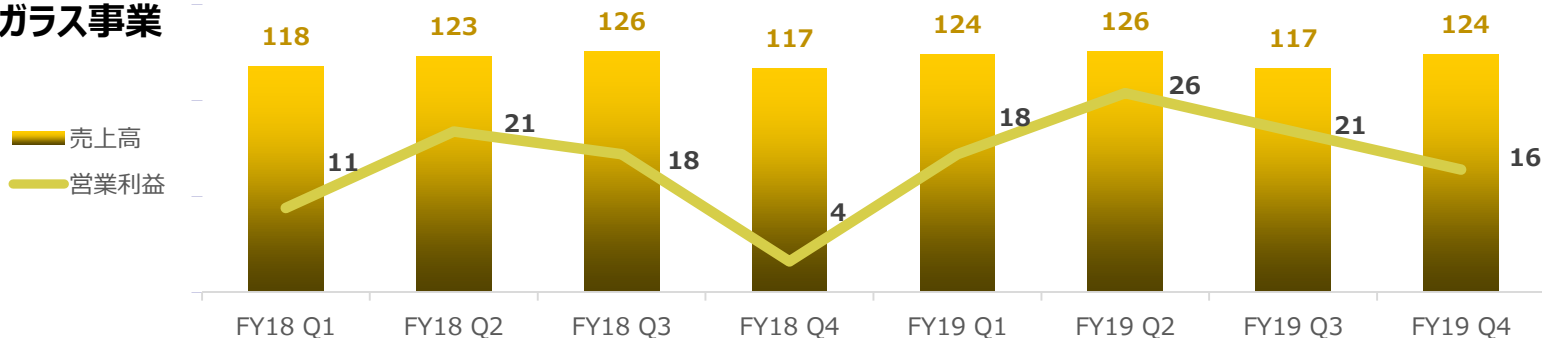
建築用ガラス事業



自動車用ガラス事業



高機能ガラス事業



*: 無形資産償却前営業利益

個別開示項目

(億円)	<u>2018年3月期</u>	<u>2019年3月期</u>
有形固定資産等の減損損失戻入益	1	27
事業閉鎖に伴う換算差額の実現益	-	7
ジョイント・ベンチャーに対する投資の評価損の戻入益	41	-
有形固定資産等の売却による利益	21	-
ジョイント・ベンチャー及び関連会社に対する投資の売却益	15	-
保険金の受取による利益	10	-
リストラクチャリング費用	(52)	(44)
有形固定資産等の減損損失	(5)	(35)
退職給付債務－過去勤務費用	-	(14)
設備休止に係る費用	(46)	(10)
その他	2	(2)
	(13)	(71)

連結貸借対照表

(億円)	* 2018年3月末	2019年3月末	増減
資産	7,886	7,619	(267)
非流動資産	5,308	5,163	(145)
のれん・無形資産	1,697	1,611	(86)
有形固定資産	2,441	2,415	(26)
その他	1,170	1,137	(33)
流動資産	2,578	2,456	(122)
現金及び現金同等物	648	524	(124)
その他	1,930	1,932	2
負債	6,449	6,294	(155)
流動負債	2,550	1,930	(620)
金融負債	976	422	(554)
その他	1,574	1,508	(66)
非流動負債	3,899	4,364	465
金融負債	2,751	3,293	542
その他	1,148	1,071	(77)
資本	1,437	1,325	(112)
親会社の所有に帰属する資本	1,352	1,238	(114)
非支配持分	85	87	2
負債及び資本	7,886	7,619	(267)

*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

[資本] IFRS第15号適用前: 7,919億円 (調整額: △33億円)

[負債] IFRS第15号適用前: 1,428億円 (調整額: + 9億円)

連結キャッシュ・フロー

(億円)	2018年3月期 [*]	2019年3月期	増減
当期利益	79	144	65
米国法人所得税率の変更に伴う調整額	96	0	(96)
減価償却費	294	279	(15)
減損損失（戻入）	(36)	19	55
有形固定資産等売却益	(40)	(2)	38
事業閉鎖による為替差益	0	(7)	(7)
持分法による投資利益	(24)	(62)	(38)
法人所得税支払額	(58)	(54)	4
その他	15	23	8
営業活動によるキャッシュ・フロー（運転資本の増減考慮前）	326	340	14
運転資本の増減	21	(50)	(71)
営業活動によるキャッシュ・フロー	347	290	(57)
有形固定資産の取得	(291)	(281)	10
資産売却収入	105	5	(100)
その他	7	(5)	(12)
投資活動によるキャッシュ・フロー	(179)	(281)	(102)
フリー・キャッシュ・フロー	168	9	(159)

*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。
 (フリー・キャッシュ・フローには影響ありません)

減価償却費・資本的支出・研究開発費

(億円)	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 見通し
減価償却費	294	279	300
資本的支出（無形資産を含む）			
通常投資	355	271	300
戦略投資、他	-	51	600
合計	355	322	900
研究開発費			
建築用ガラス事業	27	26	-
自動車用ガラス事業	28	30	-
高機能ガラス事業	20	8	-
その他	16	30	-
合計	91	94	100

為替レート・原油価格

期中平均レート

	FY2017	FY2018				FY2019				FY2020
	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	見通し
英ポンド	142	142	144	146	147	149	147	146	146	145
ユーロ	119	122	126	128	130	131	130	129	129	130
米ドル	108	111	112	111	111	110	111	111	111	110
ブラジル・レアル	32.8	34.6	35.0	34.8	34.4	30.4	29.3	29.3	29.4	28.0
アルゼンチン・ペソ	7.22	7.06	6.74	6.65	6.30	4.70	-	-	-	-

期末レート

	FY2017	FY2018				FY2019			
	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
英ポンド	139	146	151	152	150	145	148	141	144
ユーロ	119	128	132	136	132	128	132	127	124
米ドル	111	112	113	113	106	111	113	111	111
ブラジル・レアル	35.5	34.0	35.4	33.9	32.1	28.6	28.2	28.5	28.3
アルゼンチン・ペソ	7.24	6.81	6.42	6.03	5.30	3.94	2.84	2.93	2.53

為替感応度

他の条件に変動がない前提で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の増加（減少）額

(億円)	FY2017	FY2018	FY2019
資本	(35)	(35)	(33)
当期利益	(2)	(1)	(2)

原油価格（ブレント）

FY2020 見通し 1バレル = \$67

アルゼンチンにおける超インフレ会計

2019年3月期第2四半期より、IAS第29号に定められる要件に基づき、アルゼンチンの子会社の財務諸表に対して実施した超インフレ会計の主な手続き

- 有形固定資産とそれに係る繰延税金の残高について、資産取得日を基準にしたインフレ係数を適用して修正
- 損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書について、2018年4月1日からインフレ係数を適用して修正
- 貨幣性項目については、インフレによる価値減少（機会損失費用）を金融費用として計上
- 損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書の連結に際し、期末日レートを用いて日本円に換算

超インフレ会計の適用による連結財務諸表への影響（2019年3月期通期、単位：億円）

連結損益計算書

売上高	(17)
営業利益	(6)
税引後利益	(16)
非支配者持分に帰属する利益	(7)
親会社の所有者に帰属する利益	(9)

連結貸借対照表

有形固定資産	38
繰延税金負債	(9)
親会社の所有者に帰属する持分	17
非支配持分	12
資本合計	29

BICの取り組み領域 (1)「ライフサイエンス」事業

食・水の安全、環境、資源、学術に注力

モバイル
遺伝子検出



検査用ディスケット



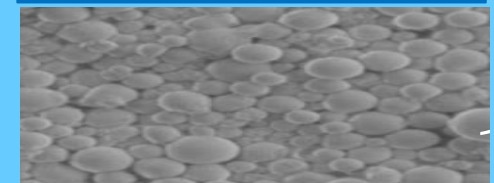
流路チップ



ガラス微細加工



無機微粒子材料



BICの取り組み領域 (2) 「IoT, Cloud」事業

高速データ通信、センサー、フィルターに注力



BICの取り組み領域

(3)「エネルギー変換」事業

機能性材料を通じて変換効率を高める

次世代蓄電ソリューション



高効率モーターソリューション



イオン・電気化学材料



スーパーガラスペーパー
超薄膜・高信頼性隔壁材料



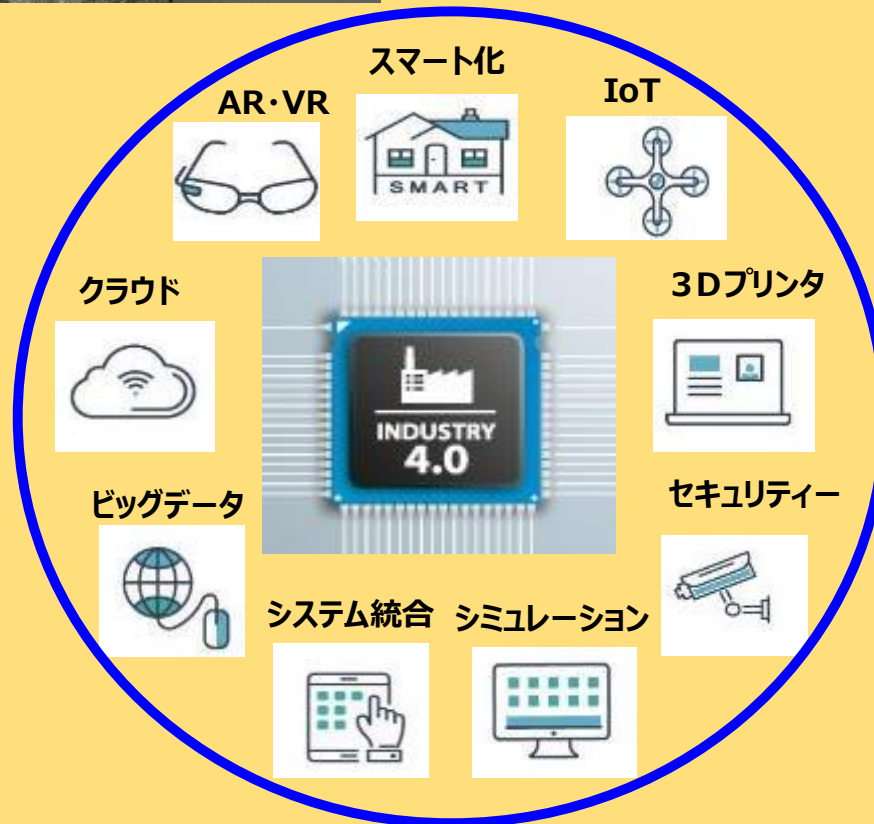
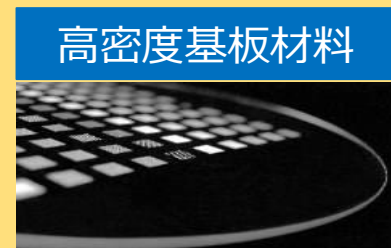
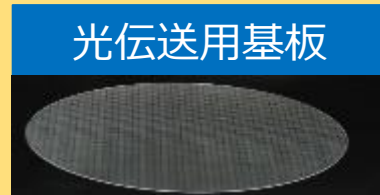
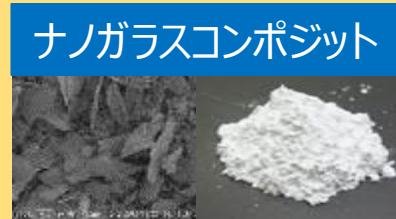
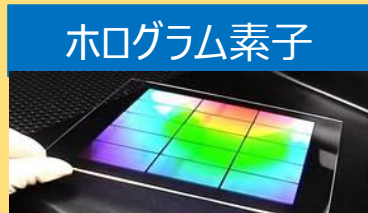
高放熱ガラスフレーク
高信頼・高放熱材料



BICの取り組み領域

(4) 「Industry 4.0」事業

ファインガラスの応用でセンサーを高性能化



2018年11月～2019年4月 主なニュースリリース

2018年11月1日	A種種類株式の一部取得および消却に関するお知らせ
2018年11月14日	三井住友銀行の「ESG／SDGs 評価」に基づく初のコミットメントライン・シンジケーションで最上位評価の取得
2018年11月21日	CSRの国際評価機関EcoVadisから最高ランク「ゴールド」を獲得
2019年1月8日	公益財団法人日本板硝子材料工学助成会 第36回研究成果発表会の開催
2019年1月30日	日本板硝子環境アメニティ株式会社の株式譲渡について
2019年2月12日	茨城県龍ケ崎市に真空ガラス「スペーシア®」を寄贈
2019年3月28日	国内初の建築用ガラス製品「環境製品宣言」(EPD) を取得
2019年3月29日	高機能ガラス事業部門ディスプレイ事業部の名称変更
2019年4月10日	日本板硝子、新規事業開発を推進 — モバイル リアルタイムPCR装置を本格発売 —

NSG

GROUP